

地域の声

私

は今、日本赤十字社東京都支部で青少年赤十字指導講師として勤務しています。現職時代は部活の顧問として青少年赤十字に関わってきましたが、退職してから青少年赤十字に関する仕事をさせていただくとは思ってありませんでした。現職時代は青森県内の学校、今は東京都内の学校が対象となりますが、学校教育の目指すところは青少年一人ひとりのより良き成長。これは地域が変わっても何ら異なることはありません。人間が本来有する「人道」の精神を大きな柱として、都内の幼保から小・中・高校における青少年赤十字活動をおして学校教育に貢献できることを嬉しく思っています。そのような青少年赤十字活動の関係もあり、本年度から都立六本木高等学校の学校運営連絡協議会委員をさせて貰うことになりました。現職の時には委員の方々に依頼する立場であったのが、今は依頼される立場となり何やら複雑な気持ちですが、私なりに協力して行きたいと思っています。都立高校には「チャレンジスクール」と言うのが六校あります。これらの学校は総合学科で単位制の定時制独立校として午前部、午後部、夜間部の三部で構成されていますが、件の六本木高等学校もこのチャレンジスクールの一つです。私は、退職前の五年間を、青森県内に二校しかない定時制の独立校八戸中央高等学校と北斗高等学校に勤務していました。これらの学校も午前部、午後部、夜間部の三部構成で単位制の高等学校でした。六本木高等学校はそれらの学校規模を大きくしたような学校で非常に親近感が湧きます。この高等学校は、あの六本木ヒルズのすぐ近くに位置しています。近くは毛利庭園、けやき通りや六本木さくら坂などがある落ち着いた佇まいの一面にあります。

先日、第一回目の学校運営連絡協議会が開催されました。委員には

麻布十番商店街の会長さんなど地域の方々も複数含まれていました。今の時代、学校は積極的に地域の方々の意見を聞き、開かれた学校を目指して行かなければならなくなりました。生涯スポーツのために体育館などの施設を開放。地域との合同防災訓練。住民の方々を対象とした公開授業。児童生徒による地域の環境整備や福祉施設訪問など、地域との様々な交流も行われています。これらのことはとても大切な事ですが、学校側の仕事が増えることは紛れもない事です。最近のニュースで見たのですが、災害時に学校が避難場所になることを想定して、教員を対象とした避難場所運営の研修会が開かれたと聞きました。何か事件があれば、子ども達の送り迎えも学校で行っているようですよ。どこまでが学校・教員の仕事なのでしょう。

地

域住民の声は大切にしなければなりません、クレームが全てと周囲に家が建ち何時の間にか住宅地。学校にはグラウンドがありません。当然地面です。風の強い日にはグラウンドの土埃が舞い、ご近所に飛んで行くのです。勿論、住民の方々から抗議がありました。そこで、数年かけてグラウンドを全面芝にしました。その学校に赴任した時、私は芝グラウンドの美しさに感嘆しました。しかし、今度は芝刈り機の音がうるさいとクレームが来たのです。半年ほど前に引越して来たそのお宅に何度も足を運び、不承不承でしたが納得して頂きました。待機児童解消のため保育園等を建設しようとする、地域住民の方から子ども達の声がうるさいと反対されるそうです。更には、自宅前で子ども達を遊ばせないで欲しいと言う訴えまであるようです。これもまた地域住民の声なのです。

(元青森県立北斗高校校長)